健康友の会みみはら2020年９月会員数（世帯数）

会員数	37,867	（前月比）＋ 64
郵　送	4,420	（前月比）＋834
手配り	28,357	（前月比）－732

協同基金到達額　2,495,098,000円（9/30現在）
［前月比 813,000増］
協同基金出資者数　19,819名（9/30現在）
いのちを守る助け合い募金額　4,506円（9/1～30）

とも friend

2020 11 No.446

発行
健康友の会 みみはら
民医連
本部事務局組織部
機関紙編集委員会
〒590-0821
堺市堺区大仙西町6丁184-2
Tel.072-244-8061
Fax.072-244-7860
1部 30円

10～11月は共同組織強化月間

ご一緒に まちづくり・健康づくりの輪ひろげませんか

「担い手さん」から
できることに感謝して「とも」配達

私が「とも」を配達するきっかけは、まだ夫婦で和洋菓子店を元気で営んでいたころ、「とも」を鳳クリニックの職員さんが届けてくださったので、「お忙しいのに、近くだったら配りますよ」とお話しし、始まりました。店をやめてからは、自宅周辺や配達地域も増え、自転車を使って約１時間で配布しています。

これまで、夫や私自身の治療闘病中の中断もありますが、できる間は配布を続けようと思っています。できることに感謝して、配布中に知人・友人にお会いできるのも嬉しいことですもの。認知症予防にもなってるかもネ！　（鳳支部　岩屋和子さん）

理事長から
広げてください友の会

「健康友の会みみはら」は、同仁会の理念を実現していくためのパートナーであり、この地になくてはならない存在です。私たち同仁会と「健康友の会みみはら」は、無差別・平等の医療・介護・福祉を地域に創り出し、健康で安心して住み続けられるまちづくりをめざして、日夜活動を行っています。

私たちと一緒に、「健康で安心して住み続けられるまちづくり」をめざして活動してみませんか？堅苦しく考えなくても、楽しく企画に参加していただけるだけで十分に、まちづくりにつながります。「健康友の会みみはら」を広げてください。心からお待ちしています。　（社会医療法人同仁会理事長　田端　志郎）

友の会と地域をつなぐ「担い手さん」
あなたのお力をお貸しください

友の会は、「健康で安心して住み続けられるまちづくり」のために、班会や医療懇談会、保健学校、青空健康チェック、健診など、様々な活動に取り組んでいます。

「とも」は、会員さん・地域と友の会を結ぶ機関紙として、友の会が発足以来、一度も休刊なく発行、今月446号を迎えます。発行部数は3万部で、うち2万7000部が1000人以上（職員含む）の「担い手さん」の手で、会員さんに直接配達されています。月に一度、ご近所5部・10部でも結構です。健康づくりも兼ねて、地域と友の会をつなぐ「担い手さん」にあなたも！

たまり場で「とも」仕分け

「とも」配達
病院への要望を聞くことも

クイズの応募ハガキは月100通

月刊 たまり場訪問記〈その２〉
田端志郎理事長

安井支部

9月11日、たまり場がないので地域会館に新理事長にお越しいただきました。21人の参加でした。

先生は初めに、研修医から耳原病院一筋で頑張って来られたことや、医療面から貧困問題をテーマにこれまで取り組んできたこと。コロナ禍で私たちはどう暮らせばよいか、病院での現場の状況や対応、そして2030年を念頭に在宅医療や介護事業への展望などの中身の濃いお話を聞きました。

コロナ禍でのインフルエンザ予防接種の接種時期の質問や、「来て良かった」との感想もありました。この日は2人の入会がありました。

現場の皆さまに感謝して、コロナ禍でも工夫して地域での健康を守る取り組みを行います。

向ヶ丘支部

9月28日、7回目の訪問は向ヶ丘支部「友の家ほっこり」。集まった世話人さんや会員さん10人は、激務の中、理事長がわざわざ友の家に来てくれたことに感激。同仁会の事業や新型コロナ対策、医療のこと、友の会のこと、質問もいっぱい出て大盛り上がり。「協同基金も友の会も大きくせなあかん」と、確認し合えた懇談になりました。

お土産には、お礼の気持ちを込めて手作りの「布草履」を贈りました。理事長の全支部訪問、応援しています。

聴診器

9月末に、飛騨高山から大阪に戻る電車の窓から、満開の彼岸花を眺めることができた。例年より10日開花が遅かったようだ▼彼岸花は、葉よりも先に真っ赤な6弁の花を放射状に数個つけて咲く。花は数日で終わり、葉が伸びはじめ、冬を越し、他の植物が茂る初夏に枯れる▼花芽は5月中ごろには地下の鱗茎内にできはじめるが、気温が25～30℃になると発育が止まる。20～25℃になると一気に成長しはじめ、地上から顔を出してから1週間ほどで花を咲かす。この気温が下がる時期が、ちょうど彼岸前にあたり、花期が彼岸にあたる▼去年も今年も、夏の猛暑で彼岸花の開花が遅れているようだ。夏の暑さは年々深刻化しており、生存が脅かされる日々がなんと増えてきたことか。地球温暖化による気候変動は、避けられない現実だ。私たちの子どもや孫の生きる時代には、地球環境はどう変わっているのだろう。今おきていることを自分事として考え、持続可能な生活に早急に舵を切りなおすべきだろう。便利さの代償に失っているものの、大きさを一人ひとりが考えることが急務ではないか。（緒方浩美）